

夜明けから日暮れまでの

強行軍にもめげず

田植えもすっかり終え、緑のジュタンと化した。庄内・由利の田園風景は見事で安らぎを感じる。一昔まえであれば「早苗振り」で一休みといった所だが、昨今は

転作大豆やソバの播種に向けた準備等であつくりしている暇などないのが現実のようである。今年の移植期、活着期は強風が2〜3日吹いたが、比較的気温

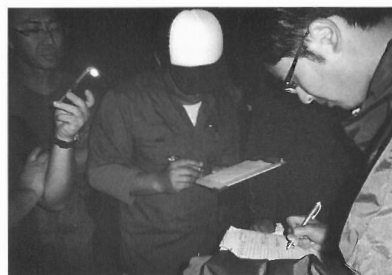
表. 平成26年・27年
6月1日現在の生育状況 (松浦)

項目	年次	平成26年	平成27年
葉 齢		4.6L	5.3L
茎 数		109本/m ²	136.9本/m ²
草 丈		20.1cm	24.3cm
根 長		11.6cm	13.1cm
葉 色		3.5番	3.5番

※品種等の区別なく21名全員の平均値で表した。



▲2年目の生育調査は手なれたもの



▲照明を頼りに記帳

が高めに経過した事から、活着も順調であつたようである。

6月は有効茎確保に向け適切な管理が求められる。

「稲株塾」では、去る6月1日に塾生21人全員参加の下、各自の「研究田」の植込み苗数及び圃場全体の栽植密度、植付け深さ、葉齢、葉色、根長等の調査確認を実施。10日毎に行う「生育調査」を誤りないものにする為の作業を行った。

当日は、西目の石川航氏の圃場

に6時集合。挨拶や諸連絡も早々にして班毎に役割分担して調査に取りかかった。

塾生も2年目とあつて、調査作業も手際よく進められ、調査終了後に担当講師や塾長から今後の管理についてアドバイスを受けた。

また、担当者は、育苗からこれまでの生育経過等を報告したり真剣な質疑があつたりで、一人30分間位の持ち時間はあつたという間に過ぎ去る強行軍であつた。

当日の生育状況を表に記したので参照願う。

前年度より葉齢で0・7葉齢ほど進んでおり、茎数、草丈、根長も葉齢に準じて増加しており、順調な本田スタートとなっているようである。

お昼も青空弁当で済ませ、極力効率の良い巡回に努めたが、最後の三川町齋藤学さんの圃場では午後8時となり、照明を頼りの記帳となつた(写真)。

(松浦一宇)